

震災支援 2016～2017 年度収支報告

2016 年度と 2017 年度の震災支援に関する収支について、以下の通り報告いたします。

◎2016 年度

▽収入の部

(1)2015 年度からの繰越 ￥1,677,561

▽支出の部

(1)東北演劇見本市 in 盛岡 2016 運営費用の一部 ￥600,000

(2)震災演劇連絡センターWeb サイト作成費 ￥216,000

(3)2017 年度に繰越 ￥861,561

◎2017 年度 収入・支出ともになし

震災後のこれから

くらもちひろゆき(劇作家協会東北支部長)

震災演劇連絡センターHPが本格運用になってようやく一年が経った。もっと経っているような気がしていたのだが、それは、試験運用の期間が結構長かったからだと思う。掲載戯曲は11本へと増えたが、まだまだたくさんの震災戯曲が眠っている。きちんと発掘し、収集、公開していかなければならないだろう。

実をいうと、震災戯曲は高校演劇の世界でたくさんの優れた作品が生み出されているらしい。このことを教えてくれたのは、劇作家協会で高校演劇を担当する工藤千夏さんだ。彼女は、東京在住ではあるものの、所属は青森の渡辺源四郎商店で、東京と青森を行ったり来たりしている。そんな縁もあり、半分東北支部のようなものなのである。

その工藤さんが、毎年高校演劇の大会で上演される作品に震災戯曲が結構な数であり、しかも良い作品がその大会の上演だけで通り過ぎているというのだ。

今後は、震災演劇連絡センターHPに高校演劇の震災戯曲リンクを立ち上げられればという工藤さんの計画に、わたしたちも協力していきたいと考えている。

東日本大震災の1年後に「震災～Shinsai Theater for Japan」で全米から集められたのは、東北の演劇人のための寄付金だった。

それを基金として、震災演劇連絡センターは立ち上げられたのだが、その呼びかけ人として、全米を動かしてくれたのは、NY在住で山形出身の俳優、ジェイムズ八重樫さんだった。これまでも、その寄付金は、東北の演劇人が集まり、交流する機会のために使われてきた。

2016年「東北 劇の陣」と題して、劇王東北版を開催する際に、審査員としてジェイムズさんをお招きした。東北演劇の現在をどうしても体感してもらいたかったのだ。そしてもう一人、熊本の震災をくぐり抜けた、河野ミチユキさんにも審査員をお願いし、「越境する東北の演劇」と題して、シンポジウムを行った。東北と熊本、NYをつないで震災と演劇の関係とその現在を話し合ったのだ。

わたしたちにとって演劇は日常の小さな営みの一つに過ぎない。一方で震災は、時代を画する歴史的な出来事である。その小さな日常と大きな歴史が、同じ時間軸で動いているのが、震災後の今の時間だと思う。好むと好まざるとに関わらず、わたしたちは震災と向き合い、演劇を行わねばならないという宿命を負ったとも言える。

どうせ宿命を負ってしまったのなら、それを前向きに捉え、歯を食いしばりながらも、人生をかけて楽しみつつ、これからも演劇に立ち向かっていかななくてはならない。

そのひとつの灯台として、震災演劇連絡センターは、ゆっくりと確実に震災戯曲を集めていくことになるのだろう。